

コミュニティスクール検討会 最終まとめ(概要)

経緯 : 「学校運営参画」と「地域学校協働活動」の更なる一体的推進・充実のため、コミュニティスクール(CS)に関係する方々による意見交換を行い、今後の方向性を検討する会議を開催する

委員構成 : 座長 早坂 淳 委員 上沼 昭彦 河西 哲也 塩原 雅由 城村 義人 傳田 智子 伴 美佐子 堀田 茂樹 (敬称略)

検討過程 : オンライン開催 全5回(第1回 R6 1/25 第2回 3/7 第3回 5/7 第4回 7/10 第5回 9/3)

1. なぜ学校運営参画が必要なのか

○学校運営参画の意味

【地域住民にとって】

- ・計画段階から関わることによる当事者意識の高まり
- ・子どもの教育・大人の学び=自己有用感の高まり
- ・「学校を核とした地域づくり」の実現

【子どもたちにとって】

- ・地域からの本気のフィードバック⇒学ぶ意欲の高まり
- ・多様な大人とのつながりによる非認知能力の高まり
- ・学校づくりに関わることによる市民性の高まり

【学校にとって】

- ・児童生徒の姿の変容がもたらす教師の有用感の高まり
- ・地域の力を活用した学校課題の解決
- ・当事者意識を持った地域住民の参画=負担感から充実感へ

○学校運営参画の課題

- 学校と地域の温度差(学校運営のどの部分に参画いただくかは難しさがあり学校ごとの議論が必要)
- 課題や目指すべき方向性などの可視化(現在の活動の良さや課題が地域と学校で共有されづらい)
- 地域・学校ともに根強いこれまでの教育観(地域・学校・保護者が総掛かりで子どもを育てる意識への変化が必要)

2. 学校運営参画を充実させるために必要なこと

○学校運営参画充実のためのポイント

- ・教職員とのコミュニケーションの活性化
- ・意識やモチベーションを高める取り組みや指導力の向上が重要
- ・子どもたちが学校運営に参画することが学校を開いていく第一歩
- ・地域住民にとってのやりがい、居場所、責任感が必要不可欠

○学校と地域の連携・協働における段階

- ・ゆっくりと地域も学校も歩み寄るように連携・協働のきずなが深まる
- ・それぞれ地域の取組の濃淡、スピード感によって違いがあってもよい
- ・多様な立場・考え方が一つの場に混ざり合う=議論の難しさの要因
- ⇒現在の立ち位置を可視化する必要がある

○学校・地域で起こる変化

- ・子供たちの成長や変化が教師の負担感を充実感へ変えていく
- ⇒この過程で地域とのつながりの意味や意義が理解される
- ・継続的にかかわる人たちの存在と同時に常に新しい当事者を招き入れる仕組みや体制づくりが必要

3. 長野県におけるコミュニティスクールの推進について

今後推進していくためのポイント

地域学校協働活動の視点から

- ・課題解決の中で生まれる教諭の必要感
- ⇒地域との中で生まれる授業へのワクワク感
- ・地域と子どもの必要感を重ねた協働活動
- ⇒「子どもと地域とともに創るカリキュラム」の実現

仕組(cs)の視点から

- ・支援の関係性のままでは頭打ち
- ⇒権限の委譲が必要ではないか
- ・コミュニティスクールの形や取組は多様性や濃淡があってもよいのではないか
- ・義務感からのつながりから「ワクワク」や「面白そう」によるつながりへ変化

今後のコミュニティスクールに求められること

学校を内外に開く学校長の学校経営ビジョンに基づく学校づくりの実施

- ・子どもと地域の声や必要感が生かされる学校づくり
- ・子ども・教員・地域の人が当事者意識を持って学校運営へ参画
- ・コーディネート機能の充実と継続性の担保
- ・市町村教育委員会のリーダーシップによる信州型CSの進化や国型CS導入検討